

平成 30 年度 自己評価報告書

学校法人 ハッ横学園
認定こども園 やつはしキッズ
ハッ横幼稚園

1. 本園の教育目標

「勇気・元気・根気の子」

ハッ横学園では、幼児の心理を理解し、大きな愛情あふれる指導をたえず工夫している。各家庭と連絡をとりながら、幼児ひとりひとりの長所を伸ばし、友だちとの共同生活によって、家庭では得られない社会性・克己心自己表現などの習慣をつけ、品位ある人間性を発揮できるよう指導する。

- ① 自分の意志で何かをやろうとする意欲のもてる子どもにする
- ② よりよいものを求めて、自由に発想し創造工夫できる子どもを育てる
- ③ 生活を楽しむことのできる子どもを育てる
- ④ 友だちとかかわる喜び・協力する大切さを知る

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・様々な活動、異文化交流を通じて子どもの豊かな感性を育む
- ・運動遊びを通じた健やかな心身を育み、自己肯定感をつける
- ・本園の教育課程、指導計画の再確認、保育内容の改善、施設の改善
- ・園内外の研修等における職員の資質向上
- ・地域における子育て支援の実践及び情報提供

3. 評価項目及び取り組み状況 (A…できている B…概ねできている C…できてない)

評価項目	評価	備考
1. 教育・保育の計画		各行事の反省会や、日々の保育の日報等、計画や月案、週案等を振り返る機会を設け取り組んでいる。
・職員が園の基本理念・方針・目標を理解し保育を行っている。	A	
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、理念や目標を反映させた全体的な計画に沿って長期・短期の指導計画を作成している。	A	
・PDCAサイクルを用いて、質の向上、改善、マンネリ防止に努めている。	A	
2. 保育内容		今年度から導入した安田式運動遊びでは子どもたちも成果を感じ、自信をつけた。来年度はインド人学校との交流等異文化理解の活動も行いたい。
・子どもが様々なものに興味を持てるよう活動や環境を展開している。	A	
・安田式運動遊びを通じ、心身の発達や達成感を味わう。	A	
・子どもが自己肯定感や自信をつける保育を展開している。	A	
・社会性や協調性を身につける活動を行う。	A	
・常駐の外国人講師との関わり等を通じ異文化理解の心を養う。	A	
・リトミックや鼓笛の音楽教育で豊かな感性、情緒を育む。	A	

評価項目	評価	備考
3. 保健・衛生及び安全管理		学園に設置している安全衛生管理医師の指導に基づき、怪我や病の対応について理解、処置方法を学んでいる。
・登降園時、保育中の健康観察、身体測定、健康診断を実施している。	A	
・毎月の避難訓練の実施で天災や火災に備えている。	A	
・怪我等の対応は担任のみではなく園長や主任も交え、通院の必要性等適切な判断を行えるようにしている。	A	
・アレルギー対策は誤食のないように徹底的に管理、対応している。	B	
5. 食育		今年度から始まった自園給食により、地元の新鮮な食材を使った温かい給食が提供でき、丈夫な身体づくりにも努めている。
・日々食事を楽しめるよう食材にもこだわった自園給食を提供している。	A	
・食事に感謝して残さずに食べられるよう指導している。	A	
・じゃがいも等実際に畑に収穫に行き、食べ物に対する興味を育む。	A	
・各学年、野菜の苗を育てる等の活動を通じ、野菜のできるまでのプロセスを学び、食べ物の大切さを知る。	B	
6. 特別支援教育		今後も、家庭・専門家や療育とも繋がりを持ち、就学前につながるような支援を考えたい。
・配慮が必要な子にはフリーの職員が付き、援助を行う。	A	
・専門家の巡回訪問等を活用し、専門家の意見を保育に活かしている。	A	
・クラス担任だけでなく、職員全体に情報を共有し、配慮している。	A	
7. 組織運営		組織としては細かいところまで徹底されていない部分がある。今後、全ての職員が高い意識を持って職務に取り組めるようにしていく必要がある。
・各学年主任をおき、クラス担任の管理・統括を行っている。	A	
・それぞれの職員間での報告・連絡・相談がもれなく行われている。	B	
・各種役割分担が明確になっており、責任をもって役割を全うしている。	A	
・守秘義務を厳守すべく各種文書、個人情報を選別して管理している。	A	
・時間、健康管理を適切に行い、常に心身共に良好の状態での職務にあたる。	B	
8. 職員の資質の向上		園内研修に関してはまだまだ不十分な部分が多く、充実させていく必要がある。
・キャリアアップ・免許状の更新講習・その他研修に参加できる勤務体制をつくり、適切な研修機会の確保をしている。	A	
・研修や講習会の内容の共有、園内研修を通じての還元を行っている。	B	
・園内研修を積極的に行っている。	B	
9. 情報提供・子育て支援(地域・社会との連携)		長期休暇中の預かり保育や課外教室の充実等、子育て支援は手厚く行っている。今後より充実させるとともに、地域にもより貢献していけるように連携を図っていく。
・園に関する様々な情報を園内外にホームページ等で発信している。	B	
・保育の様子を園だより、クラスだより等で家庭に伝えている。	A	
・送迎や行事等の際に保護者とのコミュニケーションをとり、子どもの様子等を共有し、協力して育ちに貢献している。	A	
・掲示板等で園だけではなく、地域のコミュニティの情報も発信している。	A	
・中高生の職場体験やボランティアの受け入れをし、近隣の学校とも連携を図っている。	A	
・認定こども園として、子育て支援の重要性を理解し、取り組んでいる。	A	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育課程の再確認・見直し、行事ごとの反省会、日々の終礼を通し、保育の取り組むべき課題と園の方針を全職員が理解を深めることができた。

園外研修にも積極的に参加し、教員一人ひとりの資質の向上でき、専門性を高めることができた。

5. 今後の取り組むべき課題

【課題及び具体的な取り組み方法】

教職員のより一層の資質・専門性の向上；教職員の資質・専門性の維持を回ると共に、職員会議・研修等へ積極的に参加し、より一層の資質・専門性の向上に繋げて保育・教育に反映させる。

【子育て支援の充実】

認定こども園としての子育て支援や課外活動教室を増やし、保護者に対する子育て支援をより一層充実させる。

【教育課程・指導計画の編成】

子どもたちにより良い教育を提供するために、現状の教育課程・指導計画に満足せず、子どもの実態に即し、見直しを行う。

【教職員研修】

教職員資質の向上のために研修に参加した内容を共有できるようにシステムをつくり、園内研修の機会も設けることにより、多くの職員がスキルアップできるようにする。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正に園運営されていると認められた。